

長野県

長野県退職校長会

結成 昭和54年5月26日

1 長野県退職校長会の沿革

昭和40年、日本教育推進連盟の下部組織として、「長野県支部」として発足し、昭和54年の総会において、会名と規約を議し、「長野県退職校長会」として新たにスタートを切った。令和10年には、設立50周年を迎える。

2 現在の活動の基本計画

長野県退職校長会は、“会員一人一人の人生がさらに豊になるように”との活動目標を掲げ、**教育振興への寄与** **会員相互の親睦と福祉** **教育現場の応援団** という活動の三本柱を立てている。県下14の地域に分けた支会が構成され、支会の活動が会の中核を担っている。

3 「教育振興への寄与」活動

「教育関係団体との懇談会」を活動の中心にしている。それぞれの立場の現状や課題を共有し、課題の解決に努めるべく、県教育長、県教委（義務教育課・特別支援教育課・学びの改革支援課・生涯学習課）、県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、県長頭組、信濃教育会、信州大学教育学部、青少年健全育成6団体等との懇談会を通し、連携を深めている。「信州“教育の日”」は、コロナ下においても、リモートなどの対応で途絶える事無く続けてきた。“共に学び 共に育つ 環境づくりを目指して”が不変のテーマである。県下各地の市町村に輪番で会場をお願いし、今年度は、山ノ内町で21回目を実施した。



4 「会員相互の親睦と福祉」活動

支会活動の充実を図るため、支会への補助費（会務推進費・福祉研修費）を実施している。また、支会活動情報紙の交換、県会報の充実、米寿・上寿者への丁寧で温かい対応、新入会員への積極的な勧誘活動を進めている。新入会員の入会率は、90%台である。

5 「教育現場の応援団」活動

○ 学校現場の応援団としての支援活動に取り組んでいる。

学校現場への支援活動の現状把握や情報交換を行う。令和5年度調査では、全会員の約43%が何らかの形で、教育現場に関わっている実態があった。

○ 「信州型コミュニティースクール」への理解を図り、各地域で協力している。

○ 現職学校長との教育懇談会。すべての支会ごとに実施しており、現職校長とのつながりを大事にしている。